

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの 在籍学 生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
理学療法 学科・作 業療法学 科	0 人	0 人	7 人	人	7 人	6 人	7 人	人	人	人
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
計	0 人	0 人	7 人	人	7 人	6 人	7 人	人	人	－

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則 教育内容	担当授業科目名	担当 コマ数	担当職員 (氏名)	(職名)
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	常田 つかさ	兼任
		国文学	15	大橋 晶子	兼任
		哲学	15	永谷 敏之	兼任
		社会福祉学	15	重久 晃一	兼任
		教育学	15	山下 みどり	兼任
		生物学	15	鮫島 正道	兼任
		物理学	15	立石 洋	兼任
		基礎IT学	10	黒木 辰朗	専任
		保健体育学	10	林田 元輝	兼任
		レクリエーション	10	常田 つかさ	専任
		音楽	10	柏木 祐香/田中 理砂	兼任
		一般英語	15	森 孝晴	兼任
		社会学	15	山下 みどり	兼任
		人間関係原論	10	谷口 慶子	専任
		小 計	185		
専門 基礎 分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	田川 知恵子/西山 圭介/寺師 拓斗/藤村 勇	兼任
		解剖学Ⅱ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	兼任
		生理学Ⅰ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	兼任
		生理学Ⅱ	30	田川 知恵子/立石 洋/寺師 拓斗/藤村 勇人	兼任
		運動学Ⅰ	20	宇都 未佑	専任
		運動学Ⅱ	20	宇都 未佑	専任
		臨床心理学	15	俵積田 大志	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	15	吉田 愛知	兼任
		一般臨床医学	30	立石 洋/福島 洋子/橋之口 充	兼任
		内科学	20	富宿 明子	兼任
		整形外科Ⅰ	10	西山 圭介	兼任
		整形外科Ⅱ	10	西山 圭介	兼任
		神経内科学	20	黒木 辰朗	専任
		精神医学	20	谷口 慶子/俵積田 大志	専任
		精神機能総論	10	常田 つかさ	専任
		人間発達学	10	渡 裕一	専任
		小児科学	15	川島 清美	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論Ⅰ	10	中森 健二	兼任
		リハビリテーション概論Ⅱ	10	中森 健二	兼任
		リハビリテーション医学	15	吉野 慶子	兼任
		小 計	370		

分野	指定規則 教育内容	担当授業科目名	担当 コマ数	担当職員 (氏名) (職名)	
専 門 分 野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ（精神機能領域）	10	常田 つかさ	専任
		作業療法概論Ⅱ（身体機能領域）	10	常田 つかさ	専任
		基礎作業学Ⅰ（精神機能領域）	15	西牟田 友梨	兼任
		基礎作業学Ⅱ（身体機能領域）	15	常田 つかさ	専任
		基礎作業学実習Ⅰ	10	村岡 良寛	兼任
		基礎作業学実習Ⅱ	15	西牟田 友梨	兼任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	黒木 辰朗	
	作業療法評価学	身体機能評価法Ⅰ	10	日高 俊和	専任
		身体機能評価法Ⅱ	10	宇都 未佑	専任
		身体機能評価法実習	30	日高 俊和	専任
		精神機能評価法Ⅰ	10	谷口 慶子	専任
		精神機能評価法Ⅱ	10	谷口 慶子	専任
		精神機能評価法実習	30	谷口 慶子	専任
	作業療法治療学	身体機能治療学Ⅰ	15	宇都 未佑	専任
		身体機能治療学Ⅱ	10	宇都 未佑	専任
		身体機能治療学実習	40	山下 孔明	兼任
		精神機能治療学Ⅰ	15	俵積田 大志/常田 つかさ	専任
		精神機能治療学Ⅱ	10	俵積田 大志	専任
		精神機能治療学実習	30	俵積田 大志/常田 つかさ	専任
		発達機能治療学	15	渡 裕一	専任
		発達機能治療学実習	15	渡 裕一	専任
		高齢期作業療法学	30	道岡 浩樹	兼任
		高次神経機能治療学	15	日高 俊和/常田 つかさ	専任
		義肢装具学	20	日高 俊和	専任
		日常生活活動	10	宇都 未佑	専任
		日常生活活動実習	15	宇都 未佑	専任
		リハビリテーション関連機器	15	山下 孔明	兼任
	臨床作業療法学（基礎）	総合特論Ⅰ	40	俵積田 大志/宇都 未佑	専任
	臨床作業療法学（専門）	総合特論Ⅱ	40	俵積田 大志/宇都 未佑	専任
	地域作業 療法学	職業関連活動	10	宇都 未佑	専任
		地域作業療法学	15	谷口 慶子	専任
		介護技術学	15	宇都 未佑	専任
	臨床実習	見学実習	24	日高 俊和	専任
		地域リハ見学実習	20	俵積田 大志	専任
		評価実習Ⅰ	90	常田 つかさ	専任
		評価実習Ⅱ	90	常田 つかさ	専任
		臨床実習Ⅰ	180	俵積田 大志	専任
		臨床実習Ⅱ	180	俵積田 大志	専任
		小 計	1149		
		合 計	1704		

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習	1 年次前期	作業療法概論Ⅰ・Ⅱ	1 年次前後期
地域リハ見学実習	3 年次前期	地域作業療法学、職業関連活動	2 年次前後期
評価実習Ⅰ	2 年次後期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	1 年次後期 2 年次前後期
評価実習Ⅱ	2 年次後期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	1 年次後期 2 年次前後期
臨床実習Ⅰ	3 年次前期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	1 年次後期 2 年次前後期
臨床実習Ⅱ	3 年次前期	身体機能評価学ⅠⅡ 身体機能評価学実習 精神機能評価学ⅠⅡ 精神機能評価学実習	1 年次後期 2 年次前後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報: 自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	神村 慎二
組織の開催頻度	年 2 回
組織の取り組み内容	学校全体から実施する自己点検・評価
	各学科が行う自己点検・評価の把握
	内部質保証に対する必要な取り組み
自己点検・評価結果の公表	学校ホームページ

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報: シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学校自己点検・評価委員会
	委員構成等	副校長・教頭・各学科長・各教務主任
	改善の仕組みの実際	教員による自己評価・学生による他者評価の把握と必要な取り組みの検討

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果を職員に周知し、問題点を認識し、改善する取り組みを実施する。
各組織長や学科長が定期的に確認する機会を設け取り組みを評価し、指示を行う。